

使用方法

本内容は平成22年8月25日付の登録内容に基づいています。

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		使用方法	本剤の使用回数	アシュラムを含む農薬の総使用回数	
				薬量または希釈倍率	希釈水量または使用量				
日本芝	—	畑地一年生雑草	秋～春期 (芝発芽前)	1,000～1,250mℓ /10a	200～300ℓ /10a	散布 (茎葉兼土壌処理)			
			芝生育期 (雑草生育初期)	400～600mℓ /10a					
樹木等	公園、庭園 堤とう、駐車場 道路、運動場 宅地、のり面等	一年生雑草	雑草生育期	1,000～2,000mℓ	100～200ℓ /10a	植栽地を除く 樹木等の周辺地に 雑草茎葉散布	3回以内	3回以内	
		多年生広葉雑草		2,000～3,000mℓ					
		多年生イネ科雑草		3,000～5,000mℓ					
		クズ		5,000mℓ					
すぎ (下刈り)	—	ススキ	6月	20倍	300mℓ /株径30cmの株	局所散布(茎葉処理)			
		アレチノギク、カラムシ シシウド等の大型雑草	雑草発生期			60ℓ/10a			散布(茎葉処理)
		クズ	6～7月			10倍			50ℓ/10a

効果・薬害等の注意

- ① 雑草の発生程度により許容薬量内で使用量を増減してください。
- ② 吸収・移行性の高い薬剤ですが、局所散布及び群生地散布の場合には必要に応じて展着剤を加用し、よく付着するように十分散布してください。
- ③ 局所散布または群生地散布は所定薬量内で雑草の茎葉部をねらって散布してください。
- ④ 砂土での土壌処理は発芽前雑草に対して残効性が劣るので使用はさけてください。
- ⑤ カヤツリグサ科雑草に対して効果が劣るので、当該雑草の優占圃場での使用はさけてください。
- ⑥ 遅効性で効果の現れるまでかなりの時間を要し、散布時期が遅れると効果が劣りますので、時期を失しないように散布してください。
- ⑦ 造林地の下刈りに使用する場合は、下記の項目に注意してください。
 - 1) すぎにかかるると薬害を生じることがあるので、なるべくかからないように注意して散布してください。
 - 2) 農作物にかかるると薬害を生じるので、農耕地の近くで散布する場合はなるべく風の弱い日に散布するなど薬液を飛散させないように十分注意してください。
- ⑧ 日本芝に使用する場合は、下記の項目に注意してください。
 - 1) 生育期(雑草発生初期)に使用する場合、夏季高温時及び芽立ち期の散布は一時的に黄化を生ずる恐れがあるのでさけてください。
 - 2) メヒシバ、スズメノカタビラには効果を安定させるため、4～5葉期までに使用してください。
- ⑨ 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。散布器具・容器の洗浄水は河川等に流さず、空容器等は環境に影響を与えないように適切に処理してください。
- ⑩ 公園、庭園等に使用する場合、特に以下のことに注意してください。
 - 1) 石を汚染することがあるので、霊園、墓地等では使用しないでください。
 - 2) 散布薬液の飛散あるいは本剤の流出によって有用植物に薬害が生じることのないよう十分注意して散布してください。
 - 3) 水源池に本剤が飛散、流入しないよう十分注意してください。
 - 4) 激しい降雨の予想される場合は使用をさけてください。

安全使用上の注意

- ① 眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗してください。
- ② 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
- ③ 公園、堤とう等で使用する場合は、散布中及び散布後(少なくとも散布当日)に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- ④ 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管してください。

- 使用前にラベルをよくお読みください。
- ラベル記載以外の用途には使用しないでください。
- 小児の手の届かない所に保管してください。
- 密栓し、直射日光をさけ、なるべく低温な場所に密栓して保管してください。

※ 本印刷物は平成27年4月時点での知見に基づいて作成しています。

製造  **保土谷UPL株式会社**
ホームページアドレス: <http://www.hodogaya-upl.com/>

(取扱代理店)

販売  **石原バイオサイエンス株式会社**
〒112-0071 東京都千代田区富士見2丁目10番2号
ホームページアドレス <http://ibj.iskweb.co.jp/ibj/>

一年生イネ科雑草から広葉雑草まで幅広く防除する!!

**グリーン
アービラン®
液剤**

ロングセラーのひけつは!!

**雑草のない美しい芝地形成に
貢献することです**



有効成分: アシュラム … 37.0% 人畜毒性: 普通物* 有効期限: 5年 物理的・化学的性状: 淡褐色透明水溶性液体
包装: 1ℓ×12本(紙パック) 5ℓ×4本(プラボトル)

* 毒劇物に該当しないものを指している通称

®はユナイテッドフォスフォラスリミテッド社の登録商標

イネ科雑草から広葉雑草まで、幅広い効き目!! グリーンアージラン液剤

特長

1. イネ科雑草から広葉雑草まで、幅広く防除!

防除の難しいイネ科雑草であるメヒシバやスズメノカタビラに効果的。
広葉雑草では、特にキク科雑草（アレチノギク、ヒメジョオンなど）に有効です。

2. 日本芝での高い安全性!

日本芝の生育期（春夏期、薬量 0.4 ~ 0.6ml/m²）から休眠期（秋冬期、薬量 1.0 ~ 1.25ml/m²）まで、幅広く使用できます。

3. 人畜毒性、環境影響の少ない薬剤です!

普通物*に該当。散布後は長時間土壌表面に留まることなく、植物体内または土壌中で比較的速やかに分解されますので、土壌や水系を汚染する心配はほとんどありません。

* 毒劇物に該当しないものを指している通称

● 主な対象雑草



スズメノカタビラ
(イネ科)



メヒシバ
(イネ科)



アレチノギク
(キク科)



イヌタデ
(タデ科)

● 効果の発現 (メヒシバ 3 葉期処理 保土谷化学工業(株)筑波研究所 下妻圃場)



2011年7月1日 (処理後2日)



2011年7月15日 (処理後16日)

※効果の発現～完成までの期間は温度条件に左右されます。上記は夏期に使用した場合の一例です。

作用機作

- ・有効成分であるアシュラムは、茎葉部や根部より吸収されたのち、生長部位へ移行し、植物の生長点の細胞分裂を阻害することで殺草効果を示します。
- ・植物体への吸収は、根部よりも茎葉部からが主となります。
- ・効果の発現は、まず新葉から黄化が起こり、生育不良となりやがて枯死します。効果の完成までには時間を要しますが、効果が発現した時点で生長は停止します。
- ・地上部だけでなく地下部（根部）まで完全に枯死させるため、雑草の再生を防ぎます。

温度反応性

- ・アシュラムは遅効的で、効果発現～完成までの期間は温度条件により大きく左右されます。
- ・高温期は1～2週間で効果が発現、1ヶ月程度で効果が完成（枯死）します。
- ・低温期は効果発現がゆっくりと進行し、効果の完成までに1ヶ月以上の時間を要する場合があります。特に、降霜後の低温期は効果発現までに時間がかかります。

日本芝での上手な使い方

● 春の定期散布 (日本芝生育期 薬量 0.4 ~ 0.6ml/m²)

- メヒシバ、オヒシバ等の一年生イネ科雑草、キク科、タデ科等広葉雑草の生育初期に高い効果を示します。
- 春の芝の芽立ち後、土壌処理剤との混用により、後発の一年生イネ科雑草（メヒシバなど）も同時に防除することができます。
- メヒシバの4～5葉期までに散布してください。
- 散布後7～10日後には刈り込みが可能となります。

● 秋の定期散布 (日本芝発芽前 薬量 1.0 ~ 1.25ml/m²)

- 日本芝の休眠中に生育するイネ科雑草やキク科、ナデシコ科の広葉雑草に高い効果を示します。
- 初秋の土壌処理剤散布時に、グリーンアージラン液剤を混用することにより、既発生のスズメノカタビラの防除が可能です。この場合、展着剤を加用するとより効果的です。
- スズメノカタビラの4～5葉期までに使用してください。

● 晩秋～初春の補正散布 (日本芝発芽前 薬量 1.0 ~ 1.25ml/m²)

- 低温時のスズメノカタビラは生育が緩慢なため、必ず展着剤を加用してください。また、効果の発現から完成までには長い時間がかかります。

